

心不全再入院率の多様な計算方法と留意点

北海道国民健康保険団体連合会
医療介護連携支援企画本部

【要旨】

心不全再入院率には多様な計算方法がある。このため、先行研究や医療機関のホームページに掲載されている再入院率を比較する際には計算方法の違いに注意する必要がある。計算方法は、(1)病名をレセプトとカルテのどちらから把握するか、(2)再入院時の病名を心不全に限定するか、(3)初回入院を急性心不全に限定するか、(4)他院への再入院を含めるか、(5)退院後の追跡調査を行うか、の5点によって大きく異なる。

【キーワード】

心不全 再入院率 計算方法

1 はじめに

心不全パンデミックと言われるなかで、心不全の再入院率が退院後の経過の指標として注目されている。しかし、先行研究を参照すると、心不全再入院率には多様な計算方法があることが分かる。

このため、研究結果や医療機関のホームページに掲載されている再入院率を比較する際には計算方法の違いに注意する必要がある。

本稿では計算方法の種類と留意点を概説する。

2 再入院率の計算方法

再入院率は、一部の例外はあるが、退院患者の数を分母とし、再入院患者の数を分子とするのが基本である。この分子分母の捉え方には次の種類がある。

(1) 病名をレセプトから把握する方法とカルテから把握する方法

レセプトは審査支払機関においてデータベース化され、医療機関を横断した把握が可能である。しかし、病名欄に心不全と記載されたレセプトをカルテと照合した研究では、臨床的に心不全と判断されたレセプトの割合は 57.0 %と報告されている。¹⁾このようにレセプトに記載された病名だけで抽出すると臨床的判断との間に乖離が生じるため、病名に加えて心不全特有の診療内容を抽出条件にするなどの対応が必要になる。²⁾

これに対して、カルテから把握する場合は臨床的判断との乖離はないが、自院のみ、あるいは医療機関が相互に協力した範囲での再入院率の計算となる。

(2) 再入院時の病名を心不全に限定する方法と傷病名を問わない方法

再入院率の分母は心不全で入院し退院した患者となるが、再入院時の病名については、心不全に限定する方法、関連疾患を含める方法、傷病名を問わない方法の 3 種がある。³⁾

これらの方法は、再入院率の測定目的に応じて選択される。ある医療機関の調査では傷病名を問わない再入院のうち心不全の再増悪は16%と報告されており、⁴⁾病名の限定方法によって再入院率は大きく異なる。

(3) 初回入院を急性心不全に限定する方法と慢性心不全急性増悪を含める方法

再入院率の分母となる入退院は、初回入院と称される。初回入院を急性心不全に限定する方法は、それまで心不全を発症したことのない患者が最初に急性心不全を発症した後の経過を観察するのに適している。

これに対して、初回入院に慢性心不全急性増悪を含める方法は、繰り返される再入院の予防を検討するのに適している。この方法では、ある期間中にある患者が一回以上心不全で入院した場合の一回目の入院を初回入院とし、その入院が急性心不全か慢性心不全急性増悪かを問わない。

(4) 自院への再入院に限定する方法と他院への再入院を含める方法

医療機関が公表している再入院率は、調査の制約上、自院を退院した患者が自院に再入院した場合に限定するのがほとんどである。

これに対して、レセプトデータを用いる場合は、他院への再入院も把握可能である。ある地域の研究では他院への再入院は2割程度発生していると報告されている。⁵⁾

(5) 再入院の追跡調査をする方法と過去の入院歴を参照する方法

多くの研究例では退院後の経過を追跡調査して再入院を把握している。しかし、ある期間中の心不全入院例のうち過去に心不全での入院歴のあるものを再入院としている研究例もある。これは退院後の追跡調査を必要としない方法であるが、多くの研究例とは分子分母の捉え方が異なることに注意する必要がある。

3 結語

心不全再入院率の計算を行った先行研究や医療機関のホームページなどを参照すると、再入院率には多様な計算方法のあることが分かる。これらは再入院率の測定目的や調査方法の制約などから採用されたと考えられる。このため、計算方法の違いを考慮することなく再入院率を比較し評価することは誤った解釈を導くおそれがあり、注意が必要である。

1) 国立循環器病研究センター. JROAD-DPC データにおける急性心筋梗塞および心不全診断の妥当性の検討. 広報資料 令和3年3月12日.

2) 中山雅晴. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 分担研究報告書 医療情報データベースの活用推進に関する研究. 厚生労働省厚生労働科学研究成果データベース 202125019A 2022年6月24日.

3) 大坪徹也、今中雄一. 医療システムにおける評価指標としての再入院率. 日衛誌 2012; 67: 63.

4) 小出雅雄、弓野大. YUMINO 流心不全の在宅管理. 日本医事新報 2023; 5168: 27.

5) 大坪前掲: 65.